

## グローバル・スタンダードに向けテイクオフしたモロッコ王国の観光事業



2015年に海外からの観光客数が1000万人を超え、アフリカ大陸最大の観光立国となったモロッコ王国で、この8月、人流・観光研究所長（寺前観光学博士）と共にモロッコ全国観光調査を実施した。訪問都市は、北からタンジェ、シャウエン、フェズ、ラバト、カサブランカ、マラケシュ、そしてエッサウィラの主要な観光都市7ヶ所である。33年ぶりのモロッコ。当時は主にバックパッカーが活躍し、一般人はガイドツアーに依存する観光が常であった。今世紀に入って、政府主導による観光立国政策が効を奏し、いま、モロッコの観光都市は、すでにグローバル・スタンダードに達したと言えそうだ。要約すると、

1. 交通施設：空港は、全部で27空港を数える。モロッコへの玄関空港は、カサブランカのムハンマド5世空港で、欧州、アフリカ、南北米、中東から多数の便が乗り入れる。他の中核都市の空港にも、海外からの路線が集まる。鉄道は、ONCF（モロッコ国鉄）が主要都市に急行列車を走らせている。幹線路線のフェズとマラケシュ間を約8時間で結ぶ。100kmあたり10～15分の遅れがみられるが、ほぼ正常運転。主要都市の駅舎は、ここ数年で大改装され、都市のランドマークとなった。さらに、商都カサブランカとモロッコの北の玄関タンジェとの間350kmを2時間で結ぶ超高速列車の開業が2018年を目標に進められている。フランスのTGV型車両を最大時速320kmで走行させるもので、現在、試験走行中。超高速列車計画はやや遅れはしたものの、すでに開業が1、2年後に迫り、モロッコの産業化、観光化に大きく貢献しよう。道路は、主要都市間を時速100km制限の高速道路がくまなく整備され、観光用にも国営、民営両者のエアコン付き大型バスが頻繁に走行する。都市内交通は、民営バスが市民の足として機能し、カサブランカでは2012年にトラムが運転開始した。モロッコの観光都市にあっては、同時にタクシーが普及。プチ・タクシーは、2～3キロまでの市内中心、グラン・タクシーは空港や郊外までの運送を担務する。料金は、初乗りが10DH（約1ユーロ）程度で極めて安い。

2. 宿泊施設：観光都市には、地元資本のホテル、ペンション、ヴィラなどが整備され、急増する観光客の宿泊需要に応えている。注目されるのは、大観光地に外資系高級ホテル（ハイアット・リージェンシー、ソフィテル、ヒルトン、メリディアンなど）が目白押しに進出し、いずれも広大な敷地にイスラム庭園、パティオ、プール、運動施設を配備し、ホテルのインテリアにもイスラム様式の豪華なスタイルを施している。料金が低廉で、シングルで150～200ユーロ程度、高級ホテルから予約が埋まる傾向にある。また、リヤド（Riad）と呼ばれるモロッコ独特のホテルが内外の観光客の人気を集め、盛況である。リヤドとは、モロッコ



ONCFのマラケシュ駅構内



試験走行中の新幹線

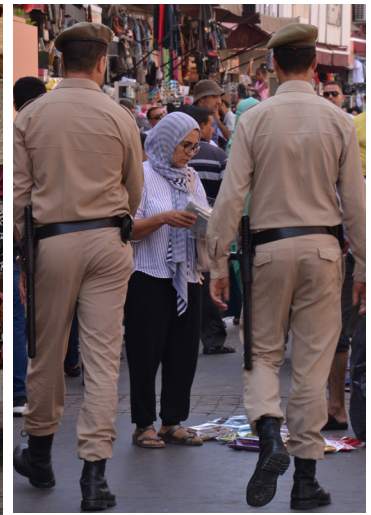


フェズの高級リヤド (Riad)

の裕福な人たちの大邸宅を宿泊可能な施設に改装し、比較的低廉な料金で観光客に開放するもの。中には、超高級なリヤドも少なからず整備され、宮殿か離宮に迷い込んだようなリッチな宿泊を可能としている。モロッコの観光地の1つ、フェズでは、高級ホテル、高級リヤドが、現在、こぞって大改装中で、質の高い観光の受け入れを急いでいる。なお、警備については、空港、駅舎、高級ホテルでの警備のほか、観光地の人の集まる場所での警察官によるパトロールが常態化している。



メディナの小路の賑わい



マラケシュのジャマ・エル・フナ広場の警備

3. 観光資源：モロッコの世界遺産は9ヶ所あり、すべて文化遺産である。古くは千年前にイスラム王が建都し、当時のまま現代に至ったイスラム都市（城壁に囲まれた旧市街、メディナとよばれる）が多くを占める。

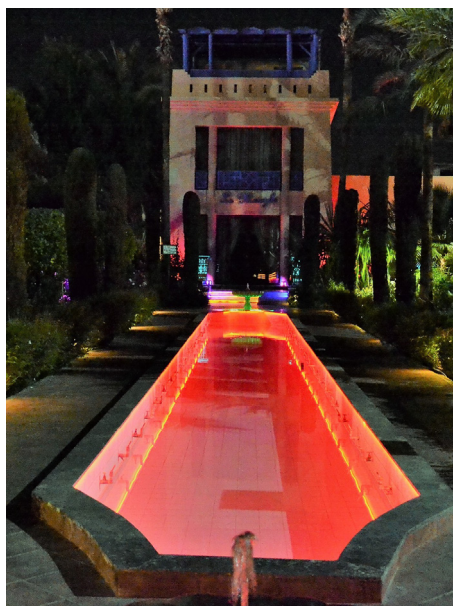
息苦しいほど密集した都市の中に、幾何学模様のレリーフや色タイルで内面を美しく装飾されたモスク、マドラサ（神学校）、霊廟が蜃気楼のように現れる。迷宮都市の名に相応しく、人がやっとすれ違えるほど狭い小路が網の目に張り巡らされ、小路の両側に並び建つ商店の店先は、日用品、ジュータン、宝飾品、金属器具、香料などで埋め尽される。延々と連なるその光景は、色彩と物量によって通行人を幻覚に誘う。メディナは、モロッコの観光資源の最大の特徴である。モロッコの世界遺産には、その他、砂漠のイスラム城砦、古代ローマの遺跡がある。異文化体験の特に顕著なモロッコの観光地として、北の古都フェズ、南の古都マラケシュが挙げられる。

4. 現地コミュニケーション：フランスの影響下に長く置かれたモロッコでは、フランス語が一般によく浸透している。テレビ、新聞などメディアは、フランス語かアラビア語の両方で報道される。都市内の案内標識もフランス語とアラビア語の2表示が多い。ただし、一般観光客が接する現地人の多くは、英語によるコミュニケーションが十分に可能。音声による言語教育を徹底させた所以であろう。

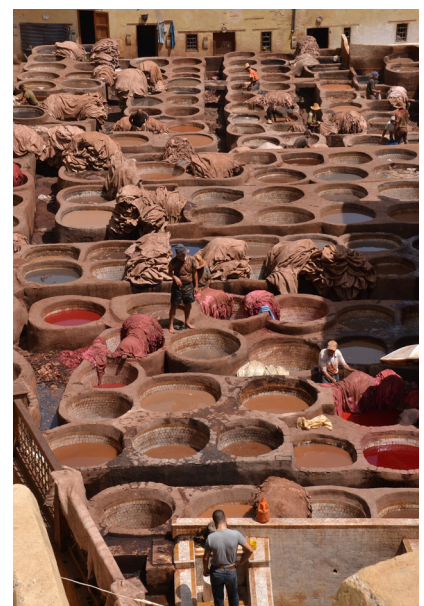
最後に、アジアからの観光客は、中国が多数（2017年に10万人超）を占め、モロッコ政府は、2020年までに中国人観光客50万人／年を目標に掲げた。



フェズのザウィア・ムーレイ・イドリス廟



マラケシュのホテルのパーティオ（中庭）



フェズの観光スポット、鞣し皮染色工場